

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

# JR東労組

# 本部OB会

# ニュース

No. 155 2011年3月 発行

## 中央本部が「エルダー社員制度」で本社に申し入れ!

### 今後、団体交渉で改善を求める

JR東労組本部は一月二十七日、JR東日本本社に対し「新たな再雇用制度」(エルダー社員制度)の改善に向けた申し入れを行ないました。

この「新たな再雇用制度」は、二〇〇八年四月より定年退職する社員に年金満額支給開始年齢までの生活設計を安定させるために、それまでの「再雇用機会提供制度」を廃止し、JR社員としての地位の維持、福利厚生などの改善を図る目的で導入された新しい制度です。しかしその後、制度上の不備や運用面の問題などが発生し、改善を求める声が多く出ていました。

#### エルダーの声が本部に届く

本部OB会は昨年十二月三日「エルダー組員(OB会員)と本部役員との意見交換会」を

#### 本部の申し入れ内容

中央本部が「JR東労組第二〇号」で申し入れた内容は、次の通りです。

- ① 再雇用(出向先)会社の年間休日については、一四日を基本とすること。
- ② JRで経験したことのない職種に就く場合には、JRに在職している間に事前教育を着実にを行うこと。
- ③ 再雇用(出向先)会社における業務内容を事前に詳細にわたって説明すること。
- ④ 一旦出向先として受け入れた会社を何らかの理由で勤務継続出来なくなった場合は、六五歳までの出向先を再度斡旋すること。

退職者連合は一月八日、衆議院第二議員会館会議室で全国から代表者一四〇名を集め、「後期高齢者医療制度廃止・新制度早期実現」退職者連合2・8院内集会を開催しました。JR総連OB連絡会も二名が参加しました。

この集会は、退職者連合の代表も参画した「高齢者医療制度改革会議」(厚生労働大臣主宰)の「最終とりまとめ」が民主党政府内の一部の人の反対によつて、法案として上程されない動きが表面化してきたことに強く抗議し、新制度の早期実現を求めるために開催されたものです。

集会には、社民党の福島党首と民主党の梅村参議員(大阪選挙区)も参加しました。退職者連合の取り組みの報告をした阿部事務局長は、改革会議の「最終とりまとめ」の内容と政府内で意見対立している点を挙げながら、新医療制度の早期実現をめざそうと怒りを込めて訴えました。

また地方代表者からも「一日も早い実現を望む」意見が相次ぎました。この「後期高齢者医療制度は、自公政権時代に作られ、当時野党だった民主党は大反対し、一昨年の総選挙のマニフェストでも「廃止」を明記しているものです。民主党政権は高齢者や弱者との公約を守り、一日も早く改革会議の「最終とりまとめ」に基づいた新医療制度の法案を今通常国会に上程し、可決成立の上、実現すべきです。

### 私のOB会活動

◇ 私は昨年から新潟で、OB会の役員を担うことになりました。役員を引き受ける事となった理由の一つに、一昨年、会社勤めから解放され、一時の安堵感を味わったものの国鉄・JR人生で染み付いた「生涯労働者」として如何に生きるかという問題に正面から考えてみようとの思いを強くしたからです。

◇ ときに、新潟のOB会は平成十八年に「邪な者達」によつて分裂を余儀なくされてきた歴史があります。そんな過去の苦難を乗り越えて、新潟地本OB会は役員体制を確立し、活動も強化しようという方針を提起していた時期でもあったことが、私の背中を押してくれた一因でもありました。

◇ OB会の活動は、健康で楽しく生涯を過ごすために、親睦と交流に重きをおいた行事が取り組まれていきます。しかし私は、OB会組織を単なる親睦団体に限定することを良しとはしません。

◇ 今、私たちを取り巻く状況は大変厳しく、社会福祉や就職問題、好転しない経済状態、そして何よりも政治が政局だけとなり、一方では軍事力を強化する強権的な体制づくりが行われようとしている時に、組織的に警鐘を鳴らすことができるようなOB会で在りたいと考えています。

◇ そのために新潟地本OB会を魅力ある組織に創り換え、活性化を図るために活動を行いたいと考えています。目標は「JR東労組新潟を支え強化を図ること」さらにOB会を強化するにはエルダー組員(OB会加入)を勝ち取り、次代のOB会の担い手として育成・強化していくこと、そうすることが退職年齢六十五歳問題を考えた時、OB会がOB会組織として存続・機能すると信じています。

◇ 新潟地本OB会が、平和と民主主義を守る闘いができるよう、そして時には弱者を守るために健康で楽しく人間らしい人生を全う出来るようなOB会活動にして、その一翼を担いたいと思います。

新潟地本OB会 (K.S)



# 活動再開なる「長野支部OB会」

長野地本・長野支部OB会総会が、一月二十九日午後一時より長野地本・会議室で開催された。本部OB会より伊藤事務局長、長野地本より山本委員長を始め東征三三、長野支部・支社支部・長野車両センター支部より三支部の委員長の出席も頂き、総勢二十一人が参加して会議室に集った。活況あふれる総会となりました。



長野地区OB会は、二、三数年來、役員高齢化による退任が相次ぎ、補充役員の選任が出来ないまま経過して来たこともあって、支部活動は休会状態に陥ったまま推移してきました。長野地本OB会は、昨年の総会で休会状態になっている支部OB会の活動を活性化させる方針を高く掲げ、その方針に従い、活動再開のための協議を重ねてきました。

一昨年頃からOB会にエルダのOB会員（エルダ組合員）が参加するようになり、OB会を取り巻く状況が大きく好転して意欲あふれる新しい役員体制を構築することが出来るようになりました。

総会は、長野地本OB会の渡辺副会長の司会で進められました。本総会に今年からOB会員

氏も出席され、挨拶で「OB会員として頑張ると共に秋の選挙での再選を目指す」決意が述べられました。本部OB会の伊藤事務局長からは最近の情勢を改めて挨拶を頂きました。さらに長野地本・山本委員長からは「エルダ制度を利用しながらエルダ組合員に残らない人が居るが、日頃から組合員に対し誠意をもって当ることが大切だと日々感じている。退職間近の組合員への取り組みを強化していきたい」との決意が述べられました。

議事に入り、地本OB会の近藤会長から今日までの経過と今後の活動についてのエールが語られました。向こう一年間の活動方針が提起され、新しく選出された役員と方針を承認して総会は成功裡に終わり、一部の懇親会に移りました。又々のこともあつて賑やかな歓談となりました。なお、新役員は次の通りです。

- 会長 長 渡辺光喜 幹事 宮澤茂人
- 副会長 岡村重徳 幹事 轟 正好
- 副会長 金子万文 幹事 清水隆夫
- 副会長 藤倉孝好 幹事 尾上俊一
- 事務局長 西澤繁和

# 八王子地本OB会 囲碁部を結成!

八王子地本OB会・囲碁部・部長 藤森 力

昨年末の十二月十四日、八王子地本OB会は、八王子労政会館において、囲碁愛好家二十名が参加する中で、囲碁部結成総会を開き、今後、活発に活動を繰り広げていくことを確認しました。

昨年、私たち八王子地本OB会が、「だじろかおる」を国政に送る闘いを現役の組合員と連携して果敢に展開し、見事に田城参議院議員を誕生させました。その闘いの総括の場でも言える第十三回八王子地本OB会定期総会において、OB会活動の中にもっとサークル活動を取り入れようという議論がなされ、「多くのOB会員が集い、強い絆で繋がった魅力あるOB会をめざせ」という意見が多数出されました。

その後、八王子地本OB会・役員会の中で議論したところ、手身近で趣味の愛好者が行事に参加できるような運動を目標とすべきたとこの意図が多岐にわたる見が多数出されました。その後、八王子地本OB会では、今後、他のサークル結成の方向性を出していき、私たちが囲碁部は「みんなで作るサークル活動」をモットーにこれから作られるサークルの先駆けとして活発な活動展開を図って行きたいと思えます。



総会終了後、短い時間でしたが、第一回囲碁大会を開催しました。そして暮雲終了後、市内で懇親会も行ない、成功裏に終了することが出来ました。

八王子地本OB会では、今後、他のサークル結成の方向性を出していき、私たちが囲碁部は「みんなで作るサークル活動」をモットーにこれから作られるサークルの先駆けとして活発な活動展開を図って行きたいと思えます。

- 部長 藤森 力 幹事 松井寛夫
- 副部長 中澤千尋 幹事 浅川武三
- 会 計 本田一之

## 私のエルダ一職場

### 職場紹介

エルダ一出勤に思うこと  
新潟地本・新潟新幹線車両センター分会 山崎 次男  
昨年十二月、新潟鉄道整備備備・新潟新幹線車両センター営業所に配属となり、「新幹線車両の構内入換業務」に従事しています。  
勤務は、一昼夜交代一本と、特別三交代一本の組み合わせで、月に二〇程度の勤務です。  
エルダ一出勤の配属になる前は、同じ車両センターで交番検査(日勤)をやっていましたので、夜勤に慣れていたせいですが、体調管理が大変です。さて、配属から二ヶ月が経過しました。入換業務のほかに車両の清掃業務も経験しました。そんな中で私が一番思い感じているのは、組合員資格の問題です。  
出向先で働いている方から「鉄路労働組合員」ではないために出向先の組合運動に参加できません。労働条件や作業環境、職場風土の改善などに向けて、力になれない自分の現状に悔みを感じています。  
JR東労組の結成当初から、分業役員や地本役員、本部の部会・分科会の役員をやらせてもらった関係から、同じ職場の鉄路労働組合員から、相談を持ちかけられます。その都度アドバイスするのですが、一緒になって組織化や問題解決に向けて、取り組めないことを感じています。  
エルダ一制度がスタートして、三年目を迎えます。この一年、この制度を活用して多くの退職した仲間が関連会社で働いています。仲間たちから聞かされた話は、「退職後の職場としては労働条件が厳しく、年金や抱き合わせの賃金など、ようやく生計が保てる程度の低賃金であり、決して楽ではない割に合わない」といふものです。最近、本人希望を無視して会社が出向先を一方的に指定し、通勤事情・健康状態・生活設計等の条件が合わず、やむを得ず途中退職せざるを得ない状況に追い込まれた仲間も少なくありません。昔は失業者があふれている雇用情勢で、働きたい奴は幾らでもいるんだ、つべこべ言わず「働きたい奴は幾らでもいるんだ」といふ言葉を聞かされたら、職場改善を求める声に耳を貸さずともいえます。  
年々、何処の労働組合でも、また何処の職場でも組合運動が無くなってきている中で、私たちが過去に闘ってきた多くの経験や教訓を活かす場所や組織が変化してきているように、不安を感じながら、「いつか、きっと」を胸に秘めて、OB会の仲間と共に頑張っています。